

地域情報（県別）

【愛知】医療に関わる仕事を網羅した求人サイト「名古屋de医療のおしごと」を開設-服部達哉・名古屋市医師会長に聞く◆Vol.1

2020年7月24日（金）配信 m3.com地域版

名古屋市医師会は2020年1月6日、会員医療機関における医療従事者確保のため、独自の求人サイト「名古屋de医療のおしごと」を開設。サイトは医師や看護師をはじめ、保健師や介護職員、事務スタッフ、送迎ドライバーなど全35職種の募集に対応し、成功報酬を含む仲介手数料が不要なのが特徴だ。名古屋市医師会会長の服部達哉氏に、サイト開設の経緯、他の求人サービスと異なる点などについて話を聞いた。（2020年6月12日電話インタビュー、計2回連載の1回目）

▼第2回はこちら（近日公開）



求人サイト「名古屋de医療のおしごと」トップページ（名古屋市医師会提供）

——2020年1月6日からサービスを開始した「名古屋de医療のおしごと」はどのような求人サイトですか。

「名古屋de医療のおしごと」は、パソコンをはじめ、スマートフォンやタブレット端末から、求職者が求人情報を検索・応募できる、求人検索サイトです。医師や看護師に限らず、介護職員や事務スタッフ、送迎ドライバーなど、医療に携わるさまざまな職種を網羅しています。名古屋市医師会が運用し、当会員医療機関でのスムーズな人材雇用と採用増、人材確保におけるコスト削減など、当会員の採用活動における利便性の向上を目的としています。

——なぜ、医師会が求人サイトを開設することになったのですか？開設までの経緯や準備にかかった期間について、教えてください。

私は2018年から現職に就いていますが、それ以前から、多くの会員医療機関から「求人・採用活動において問題を抱えている」との話をよく耳にしていました。私自身、会長選挙の公約の一つとして、会員医療機関の求人（人材確保）問題の解消を掲げていたほどです。

従来、当会では会員医療機関で働く看護師・医療事務員の人材確保策として、看護学校の運営を行い、看護師の育成ならびに、会員医療機関の人材確保に尽力してまいりました。

名古屋市医師会看護専門学校は、現在地に移転開校した1994年当時は、学生数1500人と国内最大規模を誇っていましたが、少子化や看護学校の増設により、2001年には定員を削減。その後、さらに少子化が加速。大学の看護学部増設などにより、実習病院の確保が難しくなった上、2012年と2017年には、厚生労働省からの1クラス当たりの人数制限の通達で、一層の定員削減をする状況となりました。こうした学生数の減少などにより、今後の学校運営がより厳しくなること、さらには校舎の老朽化による設備投資が必要となることを受け、会員医療機関に今後の看護学校運営についてのアンケートを実施。2019年には、第一看護学科、准看護科の募集停止、2020年には第二看護学科の募集停止が決定されました。

これに伴い、会員医療機関における看護師・准看護師などの人材確保のため、新たな方策の模索が始まったのです。その中で、会員医療機関から、求人募集の手段として人材紹介業者を活用すると紹介手数料が高額であること、民間の求人サイトや求人誌では掲載費に対する費用対効果が低いことなど、不安・不満の声も多く寄せられていました。これらを解消し、名古屋市の地域医療の充実を図るため、求人サイトの設置・運営について協議し、2019年6月、決定いたしました。その後、アンケート調査の実施や、設置・運営に関する説明会、さらには求人サイトの操作説明会の開催を経て、開設へと至りました。

——民間の人材紹介業者など、以前からあるサービスとの違いはどんなところですか？

民間の人材紹介業者を活用する場合は、求人者である医療機関側と求職者の間に、仲介担当が入りますが、当会のサイトでは仲介者を通すことなく、医療機関側と求職者が直接やりとりします。当会が行うのはシステム管理のみで、両者の間でのやりとりや採用に関しては、直接タッチしていないのが大きな違いです。

また、求職者は利用に際し、事前登録の必要がなく、パソコン・スマートフォン・タブレット端末などから、いつでもどこでも閲覧・応募が可能です。医療機関側は、必要なときに必要な情報をいつでもサイトにアップし、募集を開始することが可能です。医療機関側は、1施設につき1万円の年間利用料のみで登録でき、紹介手数料はありませんので、気軽に使っていただけます。

——医師や看護師に加え、保健師や介護職員など医療に関わるあらゆる職種を広く網羅した理由とは？

医療関連の人材紹介会社や派遣会社の多くは、医療の専門職の紹介に限られている場合が多いですが、実際の医療現場は、専門職に限らず、さまざまな職種のスタッフによって成り立っています。それらの人材を確保していくことも医療機関の課題の一つです。昨年7月に実施したアンケート調査でも、医師・看護師・医療事務以外の職種も幅広く扱ってほしいとの多くの要望が寄せられました。

そのため、当サイトでは、医療現場で働く有資格者をはじめ、さまざまな職種（開設時は34職種、2020年6月現在は35職種）に対応いたしました。看護師や医療事務など、特定の職種に絞らないことで、資格の有無にかかわらず、多くの人の目に留まる可能性も高まります。求職者が自身のライフスタイルに合わせた仕事を選択できるのは、大きなメリットであるといえるでしょう。



名古屋市医師会会長 服部達哉氏（名古屋市医師会提供）

◆服部 達哉（はっとり・たつや）氏

名古屋市医師会会長・本町クリニック院長。1985年順天堂大学医学部卒業。1995年順天堂大学大学院医学研究科卒業。順天堂大学附属病院、国立精神・神経センター国府台病院、国立精神・神経センター神経研究所勤務を経て、1999年4月、国立名古屋病院勤務、名古屋大学神経内科入局。1999年7月、名古屋市中区に本町クリニック開業。2010年4月、名古屋市中区医師会会長、2012年4月、名古屋市医師会副会長就任。2018年6月、名古屋市医師会会長就任。

【取材・文＝大熊智子】